

平成26年度

市教研音楽部会 鑑賞領域

## 学習指導案

研究主題

「伝えよう 私の音楽 私の心 つなげよう未来に」

研究の視点

- 1 表現と鑑賞を関連させた題材構成
- 2 思いや意図をもって表現したり、聴いたりする力の育成

視点2の検証授業

日 時 平成26年6月17日(火)  
授 業 14:00～14:50  
協議会 15:00～16:30

場 所 千葉市立蘇我中学校  
授 業 第2音楽室  
研究協議 会議室

授業者 加藤聡子  
展開学級 2年2組  
指導者 千葉市立磯辺中学校校長 清水幸子先生

# 2年2組音楽科学習指導案

指導者 加藤聡子

## 1 題材名

オーケストレーションのおもしろさを味わおう

教材「ボレロ」(ラヴェル作曲)

## 2 題材について

### (1) 題材の目標

- ・リズムの反復と2つの旋律に気づき、楽曲の構成を理解して鑑賞することができる。
- ・作曲者の意図した音色に着目して鑑賞し、オーケストラの表現の豊かさを味わうことができる。
- ・曲の構成やオーケストラの音色の豊かさについて、そのよさを自分の言葉で説明することができる。

### (2) 題材観

鑑賞の授業では、生徒が音楽のよさや美しさをより深く味わい、自分なりの価値観を持って聴くことを目標にしているが、そのためには、その音楽のよさや美しさのもととなっている要素や構造を感じ取り、読み解く力が必要となる。要素がどのように働いているのか、要素同士がどのように関連し合っているのか、音楽全体がどのように成り立っているのかなどの学習が求められることとなる。

本題材は、「管弦楽の魔術師」と呼ばれたラヴェルの楽曲を通して、曲の構成の仕方、楽器の使い方や強弱、音の重なり方等により生み出される様々な効果やオーケストラの音色、表現力の豊かさに気づかせることをねらいとして設定した。ここで取り上げる、ラヴェルの「ボレロ」は2小節のリズムとスペイン風の二つの旋律の繰り返しという単純な構成でありながら、次々と変わるソロ楽器による音色の変化、リズムを刻む楽器の変化や同時に3つの調で重なる旋律、全体を通してのクレシェンド、終末に表れる大胆な転調等、ラヴェルの見事なオーケストレーションによってまとめられた曲である。曲の構成がわかりやすく、豊かに音色、色彩が変化の様子を感じ取りやすいため、教材として選択した。この曲をオーケストレーションの視点から考えることによって、音楽全体がどのように成り立っているのかを理解させたい。この後に続くベートーヴェンの「交響曲第5番」やオペラの学習へと発展させていくための下地となることをねらって本題材を設定した。

### (3) 生徒の実態

1年生の鑑賞の授業では、「春」と「魔王」を扱い、聴き取らせたい要素を絞って鑑賞を行ったことで、多くの生徒が音楽の特徴をとらえた聴き方ができ、自分の言葉で紹介文を書くことができていた。

本授業に先立って行ったアンケートでは、70%以上の生徒が鑑賞は好きと答えたが、書く作業については、半数以上が「嫌いで苦手」と答えている。音楽の要素についても、歌唱教材で「旋律」や「構成」についてはくり返し触れてきているが、思ったほど言葉とその意味が生徒に定着していないことがわかる。今後の授業で、表現、鑑賞の両領域で身に付けさせたい学習内容を明確にし、聴き取らせたい要素、感じ取らせたい要素をより焦点化していく必要があると感じている。

[アンケート] 2年2組 調査人数 男子19名 女子16名 計35名

1 音楽の授業での音楽鑑賞について。

好き 25人 嫌い 10人

2 感じ取ったことを言葉や文章で表すことについて。

好きで得意だ 14人 嫌いで苦手だ 21人

[好きで得意と思う主な理由]

- ・わかったことがたくさん書ける。
- ・文章に書いて伝えることが好き。
- ・自分の思ったことを書いたりするのが好き。
- ・聴いて思ったことを書けるのが楽しい。
- ・想像するのが好き。

[嫌いで苦手と思う主な理由]

- ・どのように表したらいいのかわからない。
- ・文章を書くことが苦手。
- ・音楽を言葉や文章で表すのは難しい。
- ・音楽の用語などがよくわからない。
- ・面倒。

3 音楽を特徴づける要素について。

よくわかるものは◎、なんとなくわかるものは○、わからないものは△をつける。

	音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
◎	10	19	14	6	0	21	1	7
○	21	15	17	15	4	12	10	14
△	4	1	4	14	31	2	24	14

#### (4) 指導観

本題材では「オーケストレーション」に視点をあてて曲の聴き方を学習していく。作曲家は自らがイメージした音をスコアに起こす中で、旋律やハーモニー、リズムなどをどの楽器に割り当てるか、どのような音域で、どのような奏法で演奏するか、という作業、つまりオーケストレーションを行う。いくつもの楽器を、繰り返される主題やそれを支えるハーモニーやリズムにバランスよく配置し楽曲をまとめ上げていく技術である。ラヴェルは「管弦楽の魔術師」や「オーケストレーションの天才」とよばれたように、巧みな技術でオーケストラの魅力を引き出し、後の作曲家にも大きな影響を与えた人物である。

今回の学習では、まず、「ボレロ」の基本的な構成や構造について理解するためにボレロのリズム、旋律、低音パートを実際に自分で演奏しアンサンブルする。自分で演奏体験することによって、より主体的に鑑賞する態度がつくられると考える。そして、第1部から第5部まで経過する中で、音楽の要素はどのように変化をし、どのような効果をもたらされていっているのかということについて考えさせていきたい。そのために、鑑賞させる部分を絞り込み、聴く観点を明確にし、聴き取ったことを仲間との意見交換をすることでさまざまな気づきを引き出せると考える。学習の終末では、解説者になったつもりでコンサートのプログラムの楽曲紹介を書くことで、学習の深化を図りたい。これらの活動を通し、楽

曲の魅力に迫りながら作曲家ラヴェルの意図したオーケストレーションを理解し、今後の音楽の学習につながるものにしていきたい。

### 3 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<p>①楽曲を特徴づける諸要素について関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②楽曲を特徴づける諸要素について感じ取ったことを、紹介文に表す活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>①楽曲の構成や各部における旋律やリズムの現れ方、音色の特徴に気づき、それらが関わりあって生み出される効果を感じ取って鑑賞している。</p> <p>②ラヴェルの巧みなオーケストレーションを理解し、その特徴や面白さについて紹介文に表すことができる。</p>

### 4 題材の指導計画（3時間扱い）

時	○学習内容 ・学習活動	評価規準〈評価方法〉
1	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーケストラの音色に興味を持つ。</li> <li>・「ボレロ」の基本的な構造を理解し、特徴を感じ取る。</li> </ul>	
	<p>○ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」のピアノ演奏と、ラヴェルの編曲したオーケストラ演奏を鑑賞し、音色の違いを感じ取る。</p> <p>○「ボレロ」を鑑賞し、ボレロのリズムと二つの旋律の反復と、曲の進行とともに、音量、音色が変化していくことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞前にボレロのリズム打ち、二つの旋律を歌うことをする。構成については、ある程度説明をしたうえで聴かせてしまう。そうすることで第1時で各部の特徴をつかみやすくしておきたい。</li> <li>・第1時で、第1部だけ取り出しみんなで特徴を探ることをしたい。ppで始まりずっと静か、旋律がAABBと繰り返される、同じリズムの繰り返し、SDにFlが入ってくる、などに気付かせる。</li> <li>・気づいたことを付箋に書いて整理する。 「じゃあ、あとに続く部分にはどんな工夫があるのかな。」ということで次回の学習へと続く。</li> </ul>	<p>関・意・態① - 観察</p> <p>鑑賞① - 発表、ワークシート</p> <p>自分で気づかせることも大切ですが、この後「音色」に特化するならば、構成の部分はある程度教えた上で全部聴かせてしまってよいか、と考えました。</p> <p>←時間が心配。丁寧にやると時間切れになるか？</p>

2 本時	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボレロ」の各部には作曲者のどんな工夫があるか秘密を探る。←オーケストレーションの面白さに迫る。</li> </ul>	
	<p>○第3部と第5部の特徴を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の音色（旋律、リズム）、楽器の数、音量はどうなっているか、第1部とどんな違い(変化)が感じられるか、を聴き取り、自分たちの言葉で表現していく。付箋に書いて整理していく。</li> <li>・第3部はAの旋律が3つの調で重なっている、そのため不思議な、あるいは気持ち悪いような旋律。BはTbのソロに注目させたい。</li> <li>・第5部は全体のクラマックス。初めて出てくるAB以外の旋律、転調、打楽器の活躍をしっかり聴き取らせ、クラマックスを作っている要素に気づかせたい。</li> <li>・楽譜を提示し、そこからの気づきも引き出したい。</li> </ul> <p>○聴き取ったこと、感じ取ったことを発表する。3部、5部を聴き、確認する。</p>	<p>鑑賞①ー観察、発表</p> <p>じっくりと聴き取らせるとなると、聴く箇所を絞った方がよいかと思いました。特徴の際立つ3、5部としてみました。</p>
3	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の特徴を理解し、紹介文に書くことでそのよさや面白さを伝える。</li> </ul> <p>○前時までの学習内容を振り返る。</p> <p>○DVDで全曲を通して鑑賞し、コンサートのプログラムの楽曲紹介を書く。</p> <p>○書いたものを発表しあう。</p>	<p>鑑賞ー② ワークシート</p>

## 5 研究の視点

本題材では、視点2の「思いや意図をもって表現したり、聴いたりする力の育成」の検証として授業を行う。聴く観点を明確にして鑑賞することで、楽曲を構成する様々な要素に気づき、それらが関わりあって生まれる効果を感じ取らせたい。また、自分の考えを言葉で書き表したり、仲間との意見交換をすることで、楽曲の魅力を深く味わい、主体的に鑑賞できる態度を育てたいと考える。←前回のもの、そのままです。修正したいと思います。

## 6 本時の学習

### (1) 本時の目標

「ボレロ」の各部には作曲者のどんな工夫があるのかを探り、ラヴェルの巧みなオーケストレーションを味わう。

(2) 本時の展開 2 / 3

時配	○学習内容・学習活動〔共通事項〕	・教師の働きかけ ◆評価規準
	<p>○本時の目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ボレロ」の各部には作曲者のどんな工夫が隠されているか、秘密を探ろう。</p> </div> <p>○前時に学習した内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボレロ」のリズム打ち、旋律唱。</li> <li>・楽曲全体の構成の確認。</li> <li>・第1部の構成、音色の確認。</li> </ul> <p>○第3部、第5部を鑑賞し、それぞれの特徴を探る。(班活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律やリズムを演奏する楽器の音色、演奏している楽器の数、音量はどうなっているか。</li> <li>・曲の感じはどのように変化しているか。</li> <li>・付箋に書いていき班で整理していく。</li> <li>・楽譜からも気づいたことを出し合う。←楽譜を渡すとしたらどんなタイミングで渡したらよいか？検討</li> </ul> <p>○班で聴き取ったことや感じ取ったことを発表する。</p> <p>○3部、5部を再度鑑賞し、聴き取った内容を確認する。</p> <p>○次時は全曲を鑑賞し、コンサートプログラムの解説を書くことを知らせる。</p>	<p>←ここは、もう少し細かな段取りを書く必要があります。どのように聴かせるのか？付箋の扱いは？</p> <p>←前回の授業で楽譜を見せたときの純粋な驚き方を見て、効果的に扱いたいと思いました。</p> <p>意図的な指名をし、ねらいとしているものが出せるようにする。</p>